

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079400190		
法人名	有限会社 亀ハウス		
事業所名	グループホーム なごみ苑		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町金田987番地 (電話) 0947-48-3222		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	平成20年11月11日

【情報提供票より】(平成20年9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 7 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤 15 人	非常勤 3 人 常勤換算 15

(2) 建物概要

建物形態	併設 <u>(単独)</u>	新築 <u>(改築)</u>
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		860 円	

(4) 利用者の概要(平成20年9月25日月 日現在)

利用者人数	21 名	男性	6 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83,9 歳	最低	67 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉東クリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

枝豆畑が広がる緑豊かな環境の中に、病院を改築し広々とした3ユニットのグループホームなごみ苑がある。玄関を入ると、苑の壁には、利用者の写真、利用者職員による手作りの壁飾り、カレンダー、塗り絵や貼り絵などを飾り、利用者が穏やかに暮らせるように家庭的な雰囲気がある。昼食時、利用者職員が共に囲むテーブルでは笑い声が響き、家族のように和気あいあいとした食事風景である。居宅療養管理指導の契約を結び、医師や看護師の定期的な訪問、緊急時の場合は24時間いつでも安心できる対応の体制が整えられている。また、近くには、役場、小学校、コミュニティセンター、交番等に囲まれ、地域の一員として、地域の行事、清掃活動への参加、小学生の体験学習の受け入れなど、地域の人々からの信頼も厚い地域密着型グループホームなごみ苑である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では、要改善点は8件であった。管理者、職員の熱心な取り組みで2件が改善されている。「評価の意義の理解と活用」「市町村との連携」「運営に関する家族等意見の反映」「人権教育・啓発活動」「職員を育てる取り組み」「災害対策」が今後の課題である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	3ユニットの管理者が、それぞれの自己評価を行い、改善に向けた積極的な取り組みが感じられる。今後は、職員一人ひとりが、評価に対する意識を高めるために各自が自己評価に取り組み介護サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議には、区長、民生委員、福祉課職員、家族代表、ホーム職員が出席し、2ヶ月に1回開催している。苑の活動報告、現状報告、行事予定などの報告を行い、区長からは町内の美化運動への参加依頼をされるなど、地域との交流に役立つ会議になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの意見、苦情はほとんど出ないが、出来るだけ家族とコミュニケーションを取り、要望には対応出来るように努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	苑では、毎年なごみ祭を開催し今年も、苑の庭でバイキング方式の昼食会、ヨーヨー釣りや、ゲームなどを予定し、地域の人々と積極的に交流を深めている。町内会に加入し、区の清掃活動にも参加するなど地域の一員としての信頼を得ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人々との交流を理念の柱に置き、地域のなかで利用者一人ひとりの残存能力を大切にしながら、その人らしい暮らしを見守るという理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、職員全員で理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、盆踊り、区の清掃活動、小学生の体験学習の受け入れなど、学校や地域の行事などに積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者は理解しているが、職員までは浸透していない。	○	職員一人ひとりに、評価の意義を理解してもらい、自己評価を作成することで、介護サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、福祉課職員、家族代表、ホーム職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。この運営推進会議の議題提供のためにもいろいろなことに積極的に取り組む努力をしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福智町役場がすぐ近くにあり、地理的条件は大変良いが、市町村との連携は進んでいない。	○	病院を改築した3ユニットの広い苑であるため、町役場の研修場所として提供したり、苑の前のコミュニティセンターを利用した介護相談など様々な協働作業に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホームの掲示板に明示している。施設長、管理者は制度について理解しているが、職員の理解までは至っていない。		職員が制度を理解し、活用できる体制が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している苑だよりや写真を家族に郵送し、利用者の心身の状況や暮らしぶり等を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの介護サービスに関する要望はあるが、苑の運営に関する意見や苦情等はほとんど出ない。	○	運営推進会議や家族会を通して家族とのコミュニケーションをとりながら、運営に関する要望が出やすい環境を作り、反映できるよう取組んで行くことが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあるが、施設長や管理者は利用者のなじみの関係を壊すことなく穏やかに暮らせるように日々努力している。		
11	19	人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集採用に当たっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関しては、年齢、性別に制限はない。また、職員が気持ちよく生き生きと勤務できるように、休憩室を設け、休憩時間の配慮などの工夫がみられる。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	人権教育に関しての研修会の受講は出来ていない。今後の課題として積極的に取り組んでいくことが望まれる。	○	人権に関する講師を招き、内部研修会を開き人権教育、啓発活動に繋げていくことが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会はあるが、外部研修会への参加が実施されていない。	○	毎年変わる介護保険制度を理解するためにも、職員の経験、習熟度に合わせて外部の研修会に参加していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福智町のグループホーム協議会に参加し、ネットワークづくりや介護サービスの質を向上させるための情報交換を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者、家族に苑を見学し体験などを通して、利用者と職員がなじみの関係を作りながら入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は家族の一員として、食事の準備、後片付け、洗濯、掃除など、共に支え合う関係を大切にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、意向の表出の難しい利用者に対して、過去の履歴や様々な記録、家族や知人の話を参考にして、その人が今何をしたいのかを把握する努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	施設長、管理者、職員が、会議の中で意見を出し合い、介護計画に反映できるように努力している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直しを行い、状態の変化に応じて家族に連絡し、随時計画の見直しを実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	苑の目の前にあるコミュニティセンターを利用したり、小学生との交流、外食、ドライブ、地域の祭りへの参加など、苑独自の多機能性を活かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	小倉東クリニックと居宅療養管理指導の契約を結び、月に2回の往診、週1回の訪問看護が受けられるように支援している。24時間いつでも状態の急変に対応出来る体制がある。また、口腔ケアの一環として、歯科の居宅療養管理指導契約を結ぶ準備を進めている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族、主治医、苑が一体となって、看取りの支援実現に向けての協力体制が出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の尊厳を尊重し、個人情報の取り扱いも厳重にしている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑の一日の流れはあるが、利用者一人ひとりがその人らしく過ごせるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の楽しみの一つである食事は、職員と共にテーブルを囲み、笑い合いながらの楽しい食事風景である。利用者が、積極的に片付けを行なう姿が見られる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3～4回行っているが、3ユニットなので利用者が希望すればいつでも入浴できる体制である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、一人ひとりの生活歴や趣味を理解し、それぞれの力が発揮できるように支援している。また、ショッピングセンターに買い物に出かけたり、誕生日会にはボランティアの大正琴の演奏に合わせて楽しく昔の歌を歌うなど、気晴らしの支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの気分や希望に沿って、畑の中道を通って小学校の裏の農園までのコースを散歩したり、買い物やドライブに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	病院を改築した建物なので、建物自体が横長く全体が見渡せないなどの事情から、安全を第一に考えると場合によっては鍵をかける場合もあるが、出来る限り、利用者の様子、所在を把握して鍵をかけないケアを心がけている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は災害時の避難経路、消火器の使い方などは理解している。	○	消防署や地域の協力を得た避難訓練の実施が望まれる。また、災害に備えた食料の備蓄はされているが、飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の量、水分量をチェックし、おおまかに栄養摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には、利用者と職員との手作りの壁飾り、カレンダー、貼り絵や写真などが飾られ、居心地の良い家庭的な雰囲気である。また、利用者にとってより良い環境を提供出来るよう、今改修工事が行われ、畑や花壇を作る計画もあり、益々、充実した共用空間作りが期待される。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、タンスや仏壇など利用者の使い慣れたものや好みのものが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう支援している。		